

令和5年10月13日

庶務課

令和5年度 第1回教育推進プラン点検・評価委員会
議事概要

1 日時	令和5年7月14日（金）午後2時～4時
2 場所	オンライン開催
3 出席者	<p>【委員】 若林彰（有明教育芸術短期大学学長）、前島正明（帝京大学大学院教職研究科准教授）、俣野治康（公募区民）、横田雅子（公募区民）、加藤勲（枝川小学校長）、鳥居三千代（大島幼稚園長）、持川雅憲（小学校PTA連合会会長）、石原和哉（中学校PTA連合会会長）、大久保善子（幼稚園PTA連合会会長）</p> <p>【オブザーバー】 前本大智（深川第六中学校副校長）</p> <p>【理事者】 本多教育長、杉村教育委員会事務局次長、星名庶務課長、西尾学校施設課長、太田整備担当課長、賀来学務課長、飯塚指導室長、木内教育支援課長、笠間地域教育課長、榎本江東図書館長</p>
4 欠席者	なし
5 点検評価項目	<p>テーマ1 学び・育ち 施策1 「確かな学び」 施策2 「豊かな心」 施策3 「健やかな体」</p> <p>テーマ2 自分らしさ 施策4 「個に応じた教育」 施策5 「丁寧な相談」</p>
6 意見・質疑	<p>【テーマ1】</p> <p>（委員）コロナ禍も落ち着いた中、ICT教育の進展はどうか。</p> <p>（理事者）不登校等の児童生徒に対し、オンラインで授業を配信している。また、授業において、一人一台端末やICT機器の活用を推進している。</p> <p>（委員）授業や説明会などで端末を活用している場面に立ち合っており、ICT化が進んでいると感じる。</p> <p>（委員）コロナ禍において、一人一台端末が貸与されたことは、環境を変える良いきっかけとなった。個別最適な学びが十分に進んでいることを感じている。インターネット環境の高速化が、今後の課題である。</p> <p>（委員）こうとう学びスタンダードに基づき、学力向上のための人員配置</p>

<p>6 意見・質疑 (続)</p>	<p>や授業改善を行っており、その成果が学力調査の結果に現れている。</p> <p>(委員) 幼・小・中連携教育について、地域で教員や子どもたちがつながり、育っていくことはとても大切である。ICTの活用についても、幼・小・中の学びが繋がっていくと良い。</p> <p>(委員) 幼稚園、小学校でタブレット端末が有効に活用されており、感謝する。</p> <p>(委員) 豊かな心はすぐに育めるものではなく、幼児期からしっかり育てていくことが、相手を思いやる心や様々な人の気持ちを理解することにつながっていくと考える。共生社会では様々な人が力を合わせて生きていくことが大切であり、豊かな心の育成については大切にしていきたい。</p> <p>(委員) 中学生によるいじめについての出前授業は良い取組であるが、始まりはどのような企画であったのか。</p> <p>(理事者) 児童生徒の主体的ないじめ防止は全校で取り組んでいるが、今回の事例は、全国いじめ防止サミットに参加した生徒が、全国の中学生と交流をする中で、生徒が教職員に自発的に提案したことから始まっている。</p> <p>(委員) ぜひ、江東区内全体に広がってほしい。</p> <p>(委員) 「いじめはどんな理由があってもいけないと思う児童生徒の割合」の目標値が97%になっているが、目指すべきは100%であると思うが、この目標値の設定の考え方はどのようなものか。</p> <p>(理事者) 指標を検討した際に、現実的な数値というところで設定されたが、100%を目指して取組を進めているところ。</p> <p>(委員) 目標値は100%として設定するほうが良い。</p> <p>(委員) 言葉によるいじめが低学年に多いことから、幼稚園、小学校、中学校が連携を図りながら、言葉の大切さや優しさについて伝えていくことが必要。</p> <p>(委員) 教育委員会の取組について、保護者に知られていないと感じる。</p> <p>(委員) 広報に関しては課題であるが、主な手段としてホームページや学校からの連絡のほか、「こうとうの教育」という広報紙を年に2回発行しており、区が推し進める取組を紹介している。また、地域学校協働本部などを活用し、保護者のみならず地域にも学校のことを知ってもらう必要がある。</p>
------------------------	--

6 意見・質疑

(続)

(委員) 体力向上や豊かな心の育成には、家庭内での適切な生活習慣も必要。ICT教育については、一人一台端末の貸与により、家庭での学習にも活用できていると感じる。

【テーマ2】

(委員) スクールソーシャルワーカー（以下「SSW」）について増員を考えているか。

(理事者) 今年度、SSWを5名から10名に増員したところであり、今後、学校やSSW等の意見を踏まえながら検討を進めていく。

(委員) ワンストップ型教育相談の電子化について、電話をかけづらいと思っているこどもや保護者が気軽に申込みできるようになり、ありがたいと思う。

年々、特別に配慮を要するこどもが増えており、早めに一人一人のこどもたちにあわせて丁寧な対応をすることはとても大切なことだと思うため、人材の支援をお願いしたい。

不登校問題には様々な要因があり、一人一人大切に受け止めていくことが必要。ブリッジスクールと幼稚園で連携した活動を行っているが、勉強だけではなく様々な活動を取り入れ、こども達がまた学校に行ってみようかなという気持ちになるための取組が大切である。

(理事者) 学習支援員の増員については、今年度拡充したところであり、学校や保護者の意見を踏まえながら、今後も検討していきたい。

(理事者) 幼稚園とブリッジスクールの交流は、南陽幼稚園、第三大島幼稚園で行っているが、お互いにプラスになる取組と考えている。今後も、各ブリッジスクール近隣の幼稚園、保育園等との交流を深めていきたい。

(委員) SNS相談は小学校高学年以上が対象となっているが、低学年も対象とする必要があるのではないか。

(理事者) 今年度から5、6年生まで拡大したところであり状況を踏まえながら、低学年にも広げていくか検討する。

(委員) ワンストップ型教育相談窓口について、多種多様な相談にあたる相談員のスキルの向上が、保護者等の信頼を得るところにつながるのではないか。

ブリッジスクールの今後の方向性としてオンライン上での学習とあるが、学校復帰を目指した第一歩としてだと思うので、その後の学校復帰につなげていただきたい。

6 意見・質疑
(続)

SNS教育相談について、中学校の実績は中1と中3が多いということだが、中1ギャップや中3の受験、今年度は5、6年生であれば、恐らく6年が中学校に向けて、また、受験についての相談等があると思われるので、手厚く相談に乗っていただきたい。

(理事者) ブリッジスクールでのオンライン上での学習は、学習ソフトを活用して補充学習を行ったり、学校復帰のステップとして学校の授業にブリッジスクールからオンライン参加するといった活動も想定している。方向性としては、学校復帰に向けたステップアップとしてオンライン上での学習を進めていきたいと考えている。

また、体験的な学びによって、自己肯定感や様々な人との関わりを増やすことは大事と考えるので、活動の範囲を広げようとする気持ちを育てていきたい。

(委員) クラスの一員としてオンライン参加することで、自己肯定感等を持ってると考えるので、オンライン上の学習やブリッジスクールから学級の授業に参加できるような取組を進めていただきたい。

(委員) ブリッジスクール以外に、不登校になってしまった子どもたちに対する支援は何か行っているか。

(理事者) 一人一台端末を使用して学校の授業に家庭から参加できる取組を進めている。また、学校には行けるものの、教室には入れないといった児童生徒について、今年度から、校内別室支援指導員による別室指導を15校で始めたところ。

そのほかに、ブリッジスクール東大島教室がもみじ幼稚園の跡地に移転したことに伴い、教室のスペースが拡大したことから、こどもの話し相手や読書などができる居場所としての場を提供しているところ。

(委員) SSWについて、子どもへの支援で家庭訪問とあるが、現在何件くらいそのような事例があるのか。状況によっては、児童相談所等に引き継ぐような案件もあるのか、可能な限り教えていただきたい。

(理事者) 具体的な数字は持ち合わせていないが、家庭訪問で家族と実際に会うケースは多くある。SSWが単独で判断して動くということではなく、学校や教育員会と情報を共有しながら、また、関係機関とも情報を共有ながら対応しているところ。

(委員) 幼稚園でも、スクールカウンセラーからアドバイスをいただき、感謝しているという声がある。

(理事者) 小中学校には東京都のスクールカウンセラーがおり、区のスクールカウンセラーも幼稚園から中学校に配置している。手厚くすることにより、子どもと保護者が安心できる環境をつくってきたい。

6 意見・質疑 (続)	<p>(委員) 不登校のこどもについて、学校とスクールカウンセラー、必要に応じてSSWも加わり、こどもがどのように進んでいくのが良いかを相談するような連携が図られており、問題を早期に解決するためにとっても良い取組ではないか。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
----------------	---